

## 社会科学習指導案

## I 単元名 世界に歩み出した日本

## II 単元の考察

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のキ「大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」を受けて設定したものである。条約改正について日清・日露戦争を基軸にして調べることで、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したと条約改正の関連性について学習する。この学習を通して、条約改正についての国民の声が高まるのと同時に、政治の仕組みが整えられた日本が日清・日露戦争で勝ち、領土を広げたり産業を発展させたりして国際的地位が高まったため、不平等な条約を改正できたことを広い視野から考え、理解することができると考え、本単元を設定した。

## III 単元の目標

日清、日露戦争、条約改正、産業や科学の発展などなどについて調べ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していったことを理解するとともに、我が国の近代化に貢献した先人の努力を思う心情と先人の業績が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考える力を育てる。

## IV 評価規準 (略)

## V 指導計画 (略)

## VI 本時の学習 (第1・2時)

研究の手立てア： つかむ過程において、学習問題を追究する視点としてのキーワード1を見いだして、予想を修正する活動を行うことで、社会的事象の意味を具体的な視点をもって自分なりに考えることができるようにする。

- ねらい 学習問題「なぜ不平等な条約をなくすことができたのだろうか」に対する予想を基にキーワードを集約する活動を通して、具体的な視点を持って学習問題に対する自分の考えをもつことができる。
- 準備 ノルマントン号事件の拡大コピー(ビゴ作)、条約改正の関連年表(自作)、年表(自作)、社会科資料集、ワークシート
- 展開 (評価項目の波線部分はA規準の観点)

学習活動(形態)	時間	教師の支援及び留意点	評価項目(評価方法)
○本時のめあてを確認し、条約改正に向けた国民の声が高まったことを考える。 (一斉)	15	○本時のめあて「学習問題に対する自分なりの考え(予想)をもつ。また、調べる計画を立てる」を告げることにより、児童が本時の活動を把握できるようにする。 ○ノルマントン号事件の風刺画をもとに、条約改正に向けた国民の声の高まりをとらえることができるようにする。	

<p>○不平等条約改正までの経過を知り、学習問題を設定し、自分なりの予想を立てる。 (一斉→個別)</p>	30	<p>○条約改正に向けた政府の交渉経過だけを取り上げ、明治政府の条約改正交渉に着目できるようにするとともに、<u>学習問題「なぜ不平等な条約をなくすことができたのだろうか」</u>を設定できるようにする。</p> <p>○幕末に不平等条約を締結した理由を考えると、<u>不平等条約締結時の日本と外国との力関係</u>に着目できるようにする。</p>	
<p>○予想について具体的な言葉を見だし、それと関係のある出来事を調べる。 (一斉→個別)</p>	20	<p>○<u>予想の中の抽象的な言葉を具体的な言葉に置き換える</u>ことにより、言葉のイメージを明確にできるようにする。また、既習事項と未習事項を確認する活動に取り組みやすくなるようにする。</p> <p>○社会科資料集を使って調べる中で、児童自身が既習事項と未習事項があることに気づくことができるようにする。</p>	
<p>○調べる視点としてのキーワードを集約し、キーワード1を用いて自分の予想を修正する。 (一斉→個別)</p>	20	<p>○<u>明治維新以降の近代化に向けた諸改革や日清・日露戦争などの出来事を押さえ、既習事項と未習事項を明らかにすることを通して、調べるキーワードの焦点化を図る</u>ことができるようにする。</p> <p>○<u>4つのキーワード1がつながり、より具体的になるように、それぞれの理由を書かせた上で、キーワード1を使って自分の予想を修正するよう伝える</u>。</p>	<p>関・関：条約改正までの近代化に向けた諸改革や出来事を意欲的に調べるとともに、複数のキーワードを用いて予想を修正することができる。 (ワークシート)</p>
<p>○学習計画を作る。</p>	5	<p>○次時以降の学習活動に見通しをもつことができるように、調べる順序、使う資料を書くよう伝える。</p>	

## VII 本時の学習（第5時）

研究の手立てイ： 調べる過程において、追究結果から学習問題の解決に必要なキーワード2を見だし、キーワード1・2を線でつなげ、予想を再修正する活動を行うことで、学習問題に対する考えを広げることができるようにする。

- 1 ねらい 追究結果から社会的事象相互の関連性をとらえる活動を通して、条約改正について具体的な事実とそれらのかかわりをとらえながら考えることができる。
- 2 準備 教科書、社会科資料集、PC、図書資料、ワークシート
- 3 展開

学習活動（形態）	時間	教師の支援及び留意点	評価項目（評価方法）
○本時のめあてを知る。		○本時のめあて「調べたことの中から関連のあ	

(一斉)	3	<p>ることを見つけ、そのことを使って修正予想を書き直す」を告げ、児童の主体的な追究ができるようにすると同時に、見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>○追究活動の留意点（原因・結果・変化）を確認する。</p>	
○キーワード1について調べる。 (個別)	1 7	<p>○児童の進捗状況を見ながら活用する資料について助言する。</p> <p>○前時までと同様に、1つのキーワードに関する追究を終え場合には他のキーワードについて調べるように告げ、キーワードの関連性に自分なりに気づくことができるようにする。</p>	
○調べ分かったことのなから かかわりがあることを見いだし、線をつなぐ。 (個別)	1 5	<p>○<u>追究結果の中から関連のある内容を見つけ、線をつなぐ</u>ことにより、複数の社会的事象がかかわり合っていることに気づくことができるようにする。</p> <p>○線をつなげる際には、資料から導き出した文章（文）ではなく、<u>端的な言葉（キーワード2）</u>で表した上でつなげるように告げ、資料の丸写しをしなくても調べたことが伝わることに気づかせたい。</p>	
○調べ分かったことをもとに、 第2時で考えた修正予想をもう一度修正する。 (個別)	1 0	<p>○<u>線をつないだことをもとに、キーワード1と2を使って自分の考えを修正させ、考えに広がりをもてるようにする。</u></p> <p>○次時の活動に見通しをもつことができるように、個人の追究結果について交流することを告げる。</p>	<p><b>関・技・知</b>：キーワードについての各種資料を意欲的に収集し、適切に読み取るとともに、結果を見やすく整理しながらまとめ、自分の予想についてキーワードの関連性を考えながら修正することができる。（ワークシート）</p>

## VIII 本時の学習（第6時）

研究の手立てイ： 調べる過程において、追究結果から学習問題の解決に必要なキーワード2を見いだし、キーワード1・2を線をつなげ、予想を再修正する活動を行うことで、学習問題に対する考えを広げることができるようにする。

- 1 ねらい 追究結果を伝え合う活動を通して、条約改正に関わった社会的事象相互を理解し、それらのかかわりをとらえることができる。
- 2 準備 教科書、社会科資料集、PC、図書資料、ワークシート
- 3 展開

学習活動（形態）	時間	教師の支援及び留意点	評価項目（評価方法）
○本時のめあてを知る。 （一斉）	3	<p>○本時のめあて「調べたことを伝え合い、4つのキーワードの内容を確かめる。また、伝え合った中から関連のあるものを見つける」と活動の留意点（調べたことに漏れや落ちがないようにする）を告げ、見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>○まず初めに、最初に調べたキーワード1が同じ児童でグループを作り追究結果を伝え合うこと、発表から自分の追究結果に加除修正を加えること、その次に全体で追究結果を伝え合ってキーワード1に関して加除修正を加えること、最後にかかわりのあることをワークシートに付け足し線をつなぐことを伝える。</p>	
○最初に調べたキーワード1が同じ児童同士で追究結果を伝え合う。 （小集団）	15	<p>○グループの進捗状況を見ながら、伝え合いが順調に進むよう助言する。また、同じキーワード1でも<u>追究結果に漏れや落ちが出ない</u>ように伝える。</p> <p>○個人追究があまり進まなかったり、キーワード2をあまり見いだせなかったりした児童に対して、メモを進んで取るよう助言する。</p>	
○全体で追究結果を伝え合う。 （一斉）	20	<p>○<u>全体での交流により、自分の追究に加除修正をしたり補足したり</u>することができるようにする。また、学習問題に対する自分の考えを広くとらえ直すことができるようにする。</p> <p>○発表内容を模造紙に一覧としてまとめることにより、視覚的にキーワード1に関する内容をとらえることができるようにする。</p> <p>○模造紙にまとめるに当たっては、児童に端的な言葉で発表するよう伝え、模造紙に書かれた言葉を新たなキーワード2として意識できるようにする。</p>	
○伝え合ったことをもとに、第5時でまとめたつながりに、新たにかかわりのある	7	○ <u>模造紙にまとめた追究結果一覧や自身のワークシートをもとに、かかわりのあるものを見つける</u> よう伝える。	関・思・知：追究結果を分かりやすく伝えたり見やすくメモを取った

<p>事柄を見だし、線でつなぐ。</p> <p>(個別)</p>	<p>○線でつなげる際には、交流結果から見いだした文章(文)ではなく、<u>端的な言葉(新たなキーワード2)</u>で表した上でつなげるように告げる。</p> <p>○線でつなぐことにより、より広い視野から社会的事象の関連に気づくことができるようにする。</p> <p>○次時の活動に見通しをもつことができるように、線でつないだものをもとにして学習問題について解決することを告げる。</p>	<p>りするとともに、社会的事象相互の関連性をとらえることができる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
----------------------------------	---	---

## IX 本時の学習(第7時)

研究の手立てウ：まとめる過程において、キーワード1・2を使って学習問題の結論を文章で再構成する活動を行うことで、社会的事象の意味を広い視野から考えることができるようにする。

- 1 ねらい 追究結果をもとにして社会的事象相互の因果関係や関連性を考え、学習問題に対する自分の考えをキーワードを使って文章で再構成する活動を通して、条約改正について広い視野から考えることができる。
- 2 準備 条約改正の関連年表(自作)、年表(自作)、追究結果一覧(掲示用)、社会科資料集、教科書、8カ国連合軍兵士(北清事変)の拡大コピー、中国分割の絵図(1901~1907)の拡大コピー、ワークシート、
- 3 展開

学習活動(形態)	時間	教師の支援及び留意点	評価項目(評価方法)
<p>○本時のめあてと学習活動について知る。</p> <p>(一斉)</p>	<p>3</p>	<p>○前時までの学習内容を視覚的にとらえることができるように、年表、追究結果一覧を提示し、確認する。</p> <p>○見通しをもって学習活動に取り組めるようにめあて「見いだしたつながりを整理し、学習問題に対する自分の考えをまとめる」と、活動内容(因果関係に着目して、キーワードを使って学習問題の結論を書く)について知らせる。</p> <p>○前時までに結んだ線(自分なりに考えた社会的事象相互のつながり)を原因と結果という</p>	

		<p>視点で線を矢印に直すこと（原因→結果）、その際の理由をもつこと、個別に直した後に全体で確認すること、を知らせる。</p>	
<p>○社会的事象の因果関係を線で結び、確認する。 (個別→一斉)</p>	<p>2 2</p>	<p>○<u>因果関係を上手くとらえることができない児童には、分かる範囲で矢印をつけさせ、その他は線のままでよいことを伝える。</u></p> <p>○社会的事象の因果関係・関連性を全員が確実にとらえることができるように、全体で確認する。</p> <p>○児童が原因と結果、関連性を意識できるように、その理由を発表するよう告げる。また、児童の発表内容が確かなものとなるように資料集などを用いて、補足説明をしていく。</p> <p>○誤った矢印やつなげなかった内容があれば、朱書きで加除修正するよう告げる。</p>	
<p>○日本の力が世界から認められたことをとらえ直す。</p>	<p>5</p>	<p>○<u>日本の力が世界から認められたことをとらえることができるようにする</u>ため、日英同盟を取り上げ、1902年には日本の軍事力がイギリスから認められていたこと、また「北清事変出兵時の写真」から列強の仲間入りを果たしていたこと、「中国分割の絵図」から海外（フランス）から列強の一国と見られていたことを伝える。</p>	
<p>○学習問題に対する自分の考えについてキーワードを使って文章で再構成し、発表し合う。</p>	<p>1 5</p>	<p>○社会的事象の意味を考える力の基礎を培えるようにするため、キーワード、追究結果と<u>その関連性、日本の力が世界から認められたことをもとに、キーワード1と2を使って学習問題についての考えを文章で書く</u>ように伝える。</p> <p>○学習問題に対するまとめとその確認ができるように、児童に再構成した自分の考えを発表させる。</p> <p>○陸奥宗光・東郷平八郎・小村寿太郎など国力の発展に尽力した人物、北里柴三郎・野口英世・志賀潔など科学の分野でも世界から認められたこと人物がいたことも調べた児童にはその内容を発表させ、先人の努力を思う心情を育てることができるようにする。</p> <p>○今後の活動に見通しがもてるように、次時以降は韓国併合の結果、産業の発展の影響について考えていくことを告げる。</p>	<p><u>関・恩・知</u>：条約改正に成功した理由を、キーワード同士の関連をとらえながら的確で分かりやすい文章で表現するとともに、<u>科学や医学の分野でも世界から認められたこと、関税自主権の確立以降に工業が大きく発展したことにもふれることができる</u>。(ワークシート)</p>

# 社会科ワークシート「世界に歩み出した日本」

名前：

年	条約改 <sup>かいせい</sup> 正の歩み	年	出来事
1853	ペリーが来日		
1854	各国と和親条約を結ぶ(開国)		
1858	各国と通商条約を結ぶ (不平等な条約)		
1867	江戸幕府がほろびる		
1868	明治維新		
1872	×		
1878	×		
1886	ノルマントン号事件		
1887	×		
1889	×		
1891	×		
1894	○治 <sup>ちがいほうけん</sup> 外 <sup>りょうじさいばんけん</sup> 法 <sup>りょうじさいばんけん</sup> 権 <sup>りょうじさいばんけん</sup> の改正に成功する (領事裁判権)		
1911	◎関 <sup>かんぜいじしゅけん</sup> 税 <sup>りょうじさいばんけん</sup> 自主 <sup>りょうじさいばんけん</sup> 権 <sup>りょうじさいばんけん</sup> の改正に成功する		

なぜ結んだの？

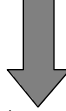
国民は？

学習問題



予想①

と思う。



キーワード（調べる必要がある出来事）

調べる必要がある出来事	理由



キーワードと理由を結びつけて、予想①を直してみると…

修正予想

と思う。

## 社会科ワークシート②「世界に歩み出した日本」

学習問題

なぜ、不平等な条約をなくすことができたのだろうか。



はじめに  
修正した予想

--

《ステップ1》調べて分かったことで、つながりのあるものを下の枠わくの中に書き出して、一線でつなげよう。

--

《ステップ2》一線をつないだことをもとにして、修正予想をもう一度直ししよう。

--

《ステップ3》みんなの意見を聞いてステップ1に付け足しをしよう。

《ステップ4》原因と結果を考え、ステップ1に書いた一線を矢印にしてみよう（原因→結果）。

**ステップ4をふまえ、学習問題に対して自分の考えをまとめよう**

--

名前：

日清戦争（ ）	使う資料：
日露戦争（ ）	使う資料：
韓国併合（ ）	使う資料：
工業の発展（ ）	使う資料：
（ ）	使う資料：